

序 文

安全で質の高い緊急検査のために

山内一由(筑波大学医学医療系)

臨床検査では、夜間や休日に行う時間外緊急検査を称して“当直”と呼んでいます。当直業務の難しさは、普段は専門としていない検査をスペシャリストと遜色なく全うしなければならないという点にあります。さらに、人命に直結し、決して失敗が許されないという緊迫感がその難易度をいっそう高めます。どんなにベテランであっても、不安や緊張は少なからずパフォーマンスを低下させるからです。担当者の精神的負担を軽減して、安全で信頼性の高い時間外緊急検査を提供するためには、ミスが起きにくい盤石な検査体制を構築することに加えて、傍らにおいていつでも手軽に参照することができるマニュアルを備えておくことが肝要です。

本増刊号の基本コンセプトは“実用性の高いマニュアル本”です。緊急検査のエッセンスをできる限り図表にまとめることによって、瞬時の判断が求められる状況下でも安全かつ質の高い検査を行えるように配慮しました。加えて、時間内検査と時間外検査との間にある、本来あってはならないギャップを少しでも埋めることができたという願いを込めて、これまでの当直マニュアルでは取り上げてこなかった項目や事柄についてもプラスαとして盛り込みました。なかには、“そんなこと、当直時には必要ない！”と反論を受けるかもしれない事項も含まれていますが、そこには前述の願いが込められているのだとご理解ください。

そもそも、時間内と時間外の区別は検査室側の勝手な都合です。“昨日の当直はベテランだったから何でもできましたが、今日は新人だからできることが限られています”では、患者さんは納得できません。自分自身あるいは自分の家族が患者だった場合には、検査室の勝手な都合に憤慨することでしょう。人命にかかわる医療サービスに日々のばらつきがあるのは許されません。精度管理以上に厳しさが求められて当然です。

国民皆保険とフリーアクセスはわが国の医療制度の誇るべき特徴です。しかし、時間内と時間外の区別は“誰でも、いつでも、どこでも”という国民皆保険制度の理念にかなっていませんし、医療機関を自由に選べたとしても時間的な制限があつては、本当の意味でフリーアクセスとはいえません。医療費やマンパワーをはじめとするさまざまな制約が24時間365日体制を実現する足かせとなっていますが、それに比肩するようなサービスが提供できるように、時間内と時間外のギャップを埋める努力をしていく必要があるといえましょう。国民皆保険もフリーアクセスもない米国の多くの医療機関が24時間365日体制を実現していることを鑑みると、なおさら強くその必要性を感じます。

編者の意図をくみ取って執筆をいただいた諸先生方のおかげで、素晴らしい参考書に仕上がったと自負しております。読者の皆さまにおかれましては、本書を大いにご活用していただけたら幸いです。